

2015 vol.199 OCT

SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

生活美学としての手工芸

—— よき伝統を次世代に ——

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 花村 邦 昭



人が生活していくうえで道具は不可欠のものです。人類の歴史で最初は道具も自然の素材に少し手を加える程度のものだったでしょうが、そのうち人は道具を使うことで生活を便利にし、豊かにすることができると気づいていき、やがてそこから、道具の精緻化も進み、様式的にもさまざまな美的工夫が凝らされるようになっていきました。そしていつの間にか、人間が道具を使いこなすという立場が逆転して、人間が道具に使役されるといった倒錯した現象があちこちに出来るようになりました。今はまさにそういう人間疎外の時代なのではないでしょうか。

ではどうやって人間と道具のあるべき関係を回復するか、道具の使用が真に人間生活の一層の豊かさにつながるような成熟した生活文化をどう育むか、道具が自らの身体の一部であるかのごとく、あたかも道具が身体の延長であるかのように、そこにいかに「体用一元の美」を実現するか、それによって「日々の生活が日々の芸術創造」

であるような「生活の芸術化」「芸術の生活化」をどう目指すか、それが今、問われています。

私たち「日本手工芸作家連合会」が目指しているのはまさにそれです。私たち一人ひとりが日常生活の各局面において、自然と調和的に生き、豊かな感受性を育み、高い創造力を生み出す、そういう生き方をいかにして取り戻すか、インターネットを駆使する高度情報通信社会にあってとすれば見失われがちな手工芸文化の原点にある「用の美」を各生活局面でどう再発見し、それを通して生活空間を審美的感性によっていかに再編成していくか、それが私たちの目標であり願いです。

いまあちこちに閉塞感が広がっています。たとえば、少子高齢化、地域崩壊、環境汚染、資源枯渇、難民、貧困、宗教対立、等々いずれも人類が直面している歴史的課題ですが、このような出口の見えにくい大問題であっても、それを前にして立ち竦んでいるだけでは何事も始まりません。私たちにはできることはただ一つ、自らの「日の営み」を自らが己に課す「美の審級」によって一つずつ丁寧に検証していくこと、それだけです。当連合会はささやかではありますが、手工芸文化の伝統を次の世代に正しく伝えていくという目標のもと、半世紀近くにわたって「地の営み」を続けて参りました。一人でも多くの方が、私たちの手工芸文化活動にご参加くださるのをお待ちしております。

●第48回創作手工芸展

当連合会主催の「創作手工芸展」は、今回で48回目の開催となります。

本年も東京都美術館のギャラリーCにて、11月8日(日)より11月15日(日)までの8日間にわたり、文部科学大臣賞、東京都議会議長賞など数々の受賞作品を展示いたします。

入場は無料となっておりますので、素晴らしい手工芸作品をご覧になっていただきたく皆様のご来場をお待ち申し上げます。

第48回●公募 ● 賞 文部科学大臣賞 他

創作手工芸展

会場 東京都美術館ギャラリーC
2015年11月8日(日)～11月15日(日)
9:30～17:30(最終日は13:00まで)
入場は前売の30分前まで

入場無料

後援
文部科学省
東京都
読売新聞社

主催
公益財団法人 日本手工芸作家連合会

出展期間 平成27年7月15日(水)～10月17日(土)
※詳細は事務局にお問い合わせ下さい。お問い合わせフォームページをご覧ください。

●当連合会副会長 石井とめ子先生 講演会

2015年6月20日(土)に大妻女子大学千代田キャンパスに於いて「侯爵 鍋島家の服飾遺品の復元―鹿鳴館時代―」の講演が行われ、多くの聴衆で賑わいました。



●講習会

毎月1回開催している講習会が今年も活発に行われています。スキルアップやニューフィールドへのチャレンジのためにも積極的にご参加ください。



3月 帽子
講師 松本由伎子



5月 羊毛フェルト
講師 福田りお



7月 藍染め
講師 池田節子



8月 つまみ細工
講師 飯村由美

平成27年度 講習会のご案内

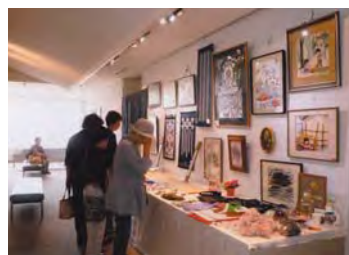
開催日	講師名	テーマ	会場
平成27年 12月12日(土)	佐久間 恭子	木杵を使った簡単袋織「アクセサリーケース」	越前屋
平成28年 1月18日(月)	松本 志津美	カードビーズで作るストラップクロバー	クロバー
平成28年 2月13日(土)	岡山 絵美	リボン刺繍	越前屋
平成28年 3月12日(土)	大塚 昌子	ポタリー	越前屋

●後援活動

当連合会では、支部・教室・会員の展覧会等創作活動に対して、後援を行っています。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

【今期の後援】

梅支部 (第23回創作手工芸梅支部展)



平成27年9月15日～20日
福岡NHKギャラリー

● 京都研修会を終えて

当連合会 理事 三 和 正 明



さる9月8日から1泊2日と2泊3日の2つのコースで開催された今年度の当連合会主催京都研修会は、折からの台風上陸の影響が懸念されたにも関わらず、全日程とも雨の影響はほとんどなく、総勢15名の参加のもと研修効果・参加者相互の懇親ともにベストの形で終了でき、古都の地での研修会ならではの成果を満喫することができました。

まず初日は、私から「手工芸作品づくりにおける『こだわりの原点』とは何か」と題する研修講演会を実施。平素何気なく取り組んでいる手工芸創作の土台を形成している源流について、さまざまな実例をもとに見つめ直す契機を全員で共有いたしました。引続いて行われた懇親会食会では、全員のユニークな自己紹介に時の経つのを忘れるほど。散会後もあちこちで余韻を楽しむ雰囲気を感じられました。

翌日は、午前10時に、創業460年に及ぶ友禅染の老舗「千總」様のご本社での仲田社長様による同社の歩みとモノづくりにかける企業理念に関するご講演を拝聴したのち、同社の染工房での友禅染の企画から完成までの工程を見学。そのプロセスの至るところで実施される千總さん（プロデューサー）と工房さん（職人さん）とのきめ細かいすり合わせの妙に一同感服。最後に実際の友禅染の傑作が展示されている「千總ギャラリー」を拝見して、次の京刺繍工房「京繍すぎした」様へ。共に伝統工芸士でいらっしゃる杉下ご夫妻の心温まるおもてなしのもと、「京繍（きょうぬい）」と呼ばれる伝統の技や、四季の美しい花々を見事に刺繍作品に仕立てた刺繍帳の拝見、目の前で実際に緻密な京刺繍作品が製作される様子、などを全員が固唾を吞んで見つめるなど、実に濃密な時間を堪能させていただきました。

3日目は、歴史の風雪に耐え抜いてきた著名な芸術作品を実際に鑑賞し心に感じとるための時間。まず、京都市街を一望できる大日堂の見晴らし台から台風一過で朝日に輝く京都の景観を目に焼き付けました。御所の圧倒的な存在感や鴨川の流れなどに一同立ち去りがたい思いでしたが、次の往訪地「智積院」に移動。有名な長谷川等伯・久蔵親子の国宝の襖絵の見事さにため息をつき、利休好みといわれる庭園の美しさに心を洗われました。そこから皇室の菩提寺として有名な「御寺泉涌寺」に。総門をくぐると、左に楊貴妃観音（重文）が祀られているお堂が、また正面の長い参道を下っていくと堂々たる仏殿（重文）が威容を誇り、奥深くに展開される壮大な結構に一同圧倒されました。最後に京都一の紅葉の名所「東福寺」へ向かい、国宝の三門、天井の龍が目を光らせる金堂、ユニークな枯山水庭園で有名な方丈、圧倒的なもみじの観覧場所 通天橋など、先人がその感性和修業の場としての調和を見事に形として残してきた古刹の魅力に酔いしれて、全行程を無事終了いたしました。



研修講演会



「千總本社」友禅染の着物を見る



友禅染工房にて



「千總本社」前にて



「京繡すぎした」にて



「京繡すぎした」にて



「智積院」利休好みの庭園



「東福寺」通天橋を望む

●思い出の多きこと

広島 有 川 郁 子

私の思い出の一つは、元広島エリカ支部長で日本手工芸の先駆者の一人でもあられた故小田切東江先生から、ありとあらゆる北欧の手芸を詳しく指導していただいたことです。

古い教会のテーブルに掛けられていたハーダンガー刺繍の素晴らしい自然の色の作品や、年一回の北欧旅行でのイタリアのチュール刺繍の見学、北京での長い伝統を誇る細やかな針刺しの両面刺繍の鑑賞など、その思い出は尽きません。



めまぐるしく移り変わるこの世の中、それぞれの思いで地球人は一生懸命残生を愉しむために生活しておりますが、私は、日本手工芸作家連合会に在籍し、天寿を全うするまで、心も体も動く体勢で、七宝焼、ビーズ刺繍、トンボ玉にも挑戦してきました。この世の中で、自分自身の心構えで臨めば、面白いことは多々あります。それには、自分の趣味を生かし、挑戦することだと思います。例えば、川柳、俳画、絵手紙等々、自分流でよいと思います。加齢ともなれば耳遠き友がいますので、葉書で面白おかしくお便りしたり、時には川柳で「欲はなし あの世ゆくには未だ早い」。ホームに入居している友への川柳を考えると、時間の経過の早さに驚きますが、脳を活性化させるための良きお薬だと思います。

また、平成25年の春に行われた当連合会の京都寺院めぐりも心に残る行事と思いました。今度は、以前夏季講習会で学んだ名古屋の有松絞りを見たいものです。

日本人は長生きで器用です。神戸市内の男性グループが、タティングレースのベストに挑戦しておられるとか、これもまた面白いことと思います。

最後に、公益財団法人日本手工芸作家連合会のご活躍を心より祈念いたします。

「きたり来て、言葉をかたり 往きゆきて 気の結ばれて うまれるいのち」
百歳の男性の言葉です。

合掌



タティングレース作品

●手仕事の喜び —札幌ボビンレース教室—

北海道 富 澤 千 寿

此の地札幌でボビンレースを教えさせて頂いておりますが生徒さん達との不思議なご縁に、年を追うごとに感謝の気持ちが厚くなります。

手仕事と言う人生の中の大きな楽しみがあることの幸せ、又その中で出会ったお仲間から、私自身も生徒さん同士も、刺激や励ましを貰い、美しいレースを作り続けることができること、私生活での小さな憂いも、ときには深い悲しみも何気ない言葉で慰められたり、勇気づけられたり、分かち合えたりすること、そんな生きる力になるものが、各お教室の中に流れています。私達それぞれの心の中の物語を、これからも楽しみながらボビンレースに込めていきたいと思ひます。



●日本ホビーショーを終えて

埼玉県 福 田 り お

「A's sweets! 福田りお羊毛菓子研究会」として日本ホビーショーへ出展するのは4回目となりました。それ以前は企業ブースでの講師や出版社ブースでのサイン会、ステージでトークショー等、関わらせて頂いてきましたが、自分の団体でブースを構えるのは感慨もひとしおです。羊毛フェルトという新しい手芸の普及を図り、後進の育成に務めるのが使命と信じ、今後も尽力いたします。



●個展を終えて 第7回あだち三和子エッグアート ＊咲き誇るイマジネーションの世界

東京都 あだち 三和子

新作を発表する場としての私の個展も今回で7回目を迎え、大盛況のうちに無事修了することができました。回を重ねるごとに、オブジェクトのみならず空間の演出を意図したレリーフ等の作品をより多く展示し、卵の殻という素材の魅力を追求したエッグアートの進化を現在進行形でお見せすることができたと自負しています。今後も更に研鑽を重ね、新たな境地をご披露したいと思っております。



●資格取得のおすすめ

本連合会は、手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育としての資格認定・免状授与を行っております。資格取得後は手工芸セミナーの指導者、社会教育における中学校・高等学校での指導者、生涯教育における指導者などの派遣を通じて、さまざまな手工芸分野で活動し、技術の向上に貢献しております。また、支部・教室で技術を習得することも出来ます。資格取得は生涯学習の宝です。

●新入会員紹介（平成26年10月～平成27年9月）

真山 典子（東京都） 平山美智子（福岡県） 坂爪喜恵子（東京都） 戸谷 勝枝（福岡県）
福田 りお（埼玉県） 一ノ瀬治子（神奈川県） 加藤アキコ（福岡県） 田村 紀子（埼玉県）
あだち三和子（東京都） 大竹みどり（東京都） 大藤 玲子（広島県） 松井奈穂美（東京都）
宮前三喜恵（新潟県）

●教室登録者

石田 則子（千葉県） 紙工芸 アトリエ・Reoアート

●教室・会員の作品展のご案内

会 期	テーマ	作 家	会 場
○H27.10.23－10.25	羊毛フェルト個展	福田 りお	台湾
○H27.10.28－11.1	カルトナージュの世界	よこた圭子	渋谷区代々木上原 Do Progetto
○H27.11.14－11.15	手芸サークル	長岡フミ子	福岡市立舞松原公民館
○H27.11.18－11.24	ザルツブルクの X'mas	リビエール	横浜高島屋
○H27.11.21	デザインフェスタ	岡山 絵美	東京ビックサイト
○H27.11.22－11.29	第9回薬師が丘作品展	原田 泰子	広島薬師が丘第一集会所ホール
○H27.11.28－11.29	シャドー作品展	石田 則子	千葉県市川市男女共同参画センター
○H28.2.20－2.21	手作りフェア in 九州	梅 支 部	九州マリンメッセ福岡

●公益財団法人に関するQ & A

Q：公益法人に求められる収支相償とはどういうことですか？

A：公益法人の認定には18の基準があり（認定法第5条）その全てを満たさねばなりません。その中でも財務に関する重要な基準が収支相償（しゅうしそうしょう）で、公益事業の収入（収益）が費用を越えないこととされて、二段階に渡って判定が行われます。第一段階は個々の公益事業に対して収益が費用を越えないこと、第二段階は公益事業全体を合算して収益が費用を越えないことで判定されます。これが収支相償です。

法人の財務チェックでは収支相償の他に、公益事業の費用が費用全体の50%以上であること、ならびに遊休財産の金額が公益事業費を越えないことなどの判定基準があり、財務面からも厳しく活動が制限されています。

事務局 海老澤 光夫 記

●次回発刊予定のご案内

SOUSAKU 200号（創作手工芸）の発刊は
平成28年4月を予定しております

発行日／2015年10月吉日
発 行／公益財団法人日本手工芸作家連合会
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-6-10
MOビル 407号室
TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140
E-mail: info@syukogei-sakka.or.jp
URL <http://www.syukogei-sakka.or.jp/>

●表紙作品：あだち 三和子「悠久の時間（とき）」
（第47回創作手工芸展 東京都議会議員賞受賞）